

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 5日現在

機関番号：32717

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21330207

研究課題名（和文） 教員の免許状更新講習における
社会科系教科教育講習プログラム作成のための研究

研究課題名（英文） Teacher's license update training program on social studies

研究代表者

谷田部 玲生（YATABE REIO）

桐蔭横浜大学・スポーツ健康政策学部・教授

研究者番号：30311137

研究成果の概要（和文）：教員の許状更新講習「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項」における社会科系教科の講習プログラムを作成することを目的とし、講習プログラム集『免許状更新講習における社会科系教科教育講習プログラム』及びその内容・電子データ等を納めたCDを作成した。講習プログラム集では、「第1編 自己診断チェックシート」には「授業力自己診断チェックシート」と「受講すべき講習を選択するための自己診断チェックシート」を用意し、「第2編 講習プログラム」には7種類の講習を掲載した。

研究成果の概要（英文）：We published the textbook and CD “Teacher's license update training program on social studies”.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2010年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2011年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
年度			
年度			
総計	13,700,000	4,110,000	17,810,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学、教科教育学

キーワード：教員免許状更新講習、社会科、講習プログラム、現職教員研修

1. 研究開始当初の背景

2006年度～2008年度に、科学研究費補助金基盤研究（B）「社会科系教科における現職教員の授業力向上プログラム作成のための研究」（代表：谷田部玲生）を実施した。この研究では、大学、教育研究所・教育センター、社会科研究会、校内研修等における社会科研修の改善を目指して、現職教員の社会科授業力を向上させるための研修プログラムを作成した。

上記研究終了の2009年4月からは、新たに教員免許更新制が導入されることとなった。そこで、上記研究の成果である現職教員

の研修プログラムを継承発展させて、さらに2009年度より始まる免許更新講習の現状と課題を確認し、それらを踏まえて免許更新講習用の社会講習プログラムを作成し、配布することとした。

2. 研究の目的

本研究は、前述の現職教員の社会科授業力向上のための研修プログラムを開発した先行研究「社会科系教科における現職教員の授業力向上プログラム作成のための研究」において明らかになった社会科系教科において必要とされる授業力とその評価方法、授業力

育成の手順に関する研究成果を継承発展させる。そして、教員の免許状更新講習「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項」における社会科系教科の講習プログラムを作成することを目的とする。

本研究の段階的な目的は、以下の5点にまとめられる。

- ①教員の社会科系教科授業力の熟達度や問題意識の違いを考慮したプログラムを作成するために、先行研究「社会科系教科における現職教員の授業力向上プログラム作成のための研究」で明らかになった授業力を更に詳細に検討し、授業力の段階性、段階別の到達目標とその手だての構造等を明らかにする。
- ②大学、教育センター・研究所、研究会、校内研修等でこれまで行われてきた各種の現職教員研修プログラムと、免許状更新講習で必要とされるプログラムの内容等の相違を明らかにする。
- ③各大学で実施されている免許状更新講習における社会科系教科講座の現状や課題等を明らかにする。
- ④諸外国の免許状更新講習や教員資格認定講習における社会科系教科講座の現状や課題等を明らかにする。
- ⑤以上を踏まえ、社会科系教科の授業力向上を目的とした教員免許更新講習用の講習プログラムを作成する。

3. 研究の方法

(1) 2009 年度

研究初年度にあたる 2009 年度の研究目的は以下を明らかにすることである。

- ①授業力の段階性や段階別の到達目標とその手だての構造
- ②従来の大学や教育センターや校内研修などで行われてきた各種の現職教員研修プログラムと免許状更新講習で行われるプログラムの特質の違い
- ③全国の大学の社会科系教科教員を対象とした免許状更新講習の現状と課題
- ④諸外国の免許状更新講習や教員資格認定講習などの現状と課題

また、効率よく研究していくために、メンバーを次の①～③の3つの研究班に分ける。

① 授業力構造分析班

主に、研究目的①の研究を担当する。授業力については、既に先行の研究である「社会科系教科における現職教員の授業力向上プログラム作成のための研究」で明らかになったところも多いが、再検討する。また、授業力についての発展的研究として、授業力の段階性の構造や、教員の授業力の段階的進歩に向けての手はず、そして教員の授業に関する興味関心の変化と授業力との関係について、学校教育現場の教員にアンケート調査を行

ったり、授業観察やインタビューを行ったりするなど、量的研究と質的研究を組み合わせで解明していく。

② 国内免許状更新講習調査分析班

主に、研究目的②③の研究を担当する。全国の大学にアンケート調査を行い、社会科系教科教員用の免許状更新講習の動向について把握する。必要に応じて大学を訪問し、講習の実際について調査を行う。こうして明らかにした全国の免許状更新講習の傾向を整理し、従来の大学や教育研究所・センター、校内研修等で行われてきた研修との特質の違いを明らかにするとともに、それぞれの課題を考察する。

③ 外国免許状更新講習等調査分析班

我が国の社会科系教科の現職教員研修に参考となる諸外国における免許状更新講習や教員資格認定講習などについて調査研究し、具体的な事例等を収集する。

(2) 2010 年度

研究2年目にあたる 2010 年度は、前年度に引き続き研究目的①～④の解明に取り組む。2010 年度後半からは、研究目的⑤社会科系教科の授業力向上のための免許状更新講習プログラムを作成する、にも着手する。2010 年度の各研究班の目標は以下の通りである。

① 授業力構造分析班

社会科系教科における授業力の構造や、授業に対する教員の興味関心の変化と授業力との関係について明らかにする。

② 国内免許状更新講習調査分析班

我が国の社会科系教科教員対象の免許状更新講習の現状と課題を明らかにする。

③ 外国免許状更新講習等調査分析班

諸外国における社会科系教科教員対象の免許状更新講習・資格認定講習の事例を収集・整理する。

さらに、講習プログラム集作成に向けて、2010～2011 年度の研究班を以下のように組織した。

① 自己診断チェックシート作成班

免許更新講習を受講する教員が自分の授業力を客観的に把握することができる自己診断チェックシート、さらにはさまざまな講座の中から自らの授業力を向上するために受講すべき講習を選択することができるような自己診断チェックシートなどの作成を目指す。

② プログラム作成班

上記研究班と連絡を取り合いながら、さまざまなタイプのプログラム原案を立てるとともに、プログラム試案を作成する。作成したプログラム試案は、必要に応じて実際に実験講習を行う。

(3) 2011年度

前年度に引き続き、研究目的⑤社会科系教科の授業力向上のために、免許状更新講習プログラムの作成を継続的に行い、研究のまとめとして「講習プログラム集」及び講習プログラムの電子データ等を入れたCDを作成する。作成した「講習プログラム集」およびCDは、都道府県・政令都市の教育センター・教育研究所等、社会科講座を設置している各教員養成大学・学部等に配布して、利用に供する。

4. 研究成果

本研究は、教員の免許状更新講習「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項」における社会科系教科の講習プログラムを作成することを最終目的とした。研究の成果として、講習プログラム集『免許状更新講習における社会科系教科教育講習プログラム』及びその内容・電子データ等を納めたCDを作成し、社会科系教科教育学教室のある大学、都道府県・政令都市の教育センター等に配布して、活用を依頼した。

作成した講習プログラム集『免許状更新講習における社会科系教科教育講習プログラム』では、最初の「第1編 自己診断チェックシート」に、自分の授業力を確認できる「授業力自己診断チェックシート」と第2編の講習プログラムの中から「受講すべき講習を選択するための自己診断チェックシート」を用意した。

「第2編 講習プログラム」には、探求型の授業構成を身に付けるためのプログラム、社会参加型授業構成習得のためのプログラム、社会科教育学によるコラボ型「社会的な思考力・判断力・表現力の育成」プログラム、社会科教育学と哲学・倫理学と法律学によるコラボ型「社会環境学習」プログラム、社会科教育学と東洋史学と日本史学によるコラボ型「東アジア海域学習」プログラム、社会科教育学と教科内容学のコラボ型プログラム～教師の教材開発・授業設計力の連続的向上をめざして～、博物館等を活用した授業設計のためのプログラムの合計7講習を掲載した。

CDには、各講習プログラムのマニュアル、ワークシート、プレゼンテーション用データ等が、電子データで入っている。そのため、電子データをそのまま利用して講習を実施することも可能であるし、また利用者が利用目的等に応じてアレンジして使用することも可能である。

講習プログラム集『免許状更新講習における社会科系教科教育講習プログラム』の概略は以下のとおりである。

第1編 自己診断チェックシート

○授業力自己診断チェックシート

チェックシートは、講習を受講する社会科教員が、日頃の教育実践に対して、漠然とした反省ではなく授業力向上という視点で、自己評価を行うことで、研修目標を明確にすることを目的としている。

チェックシートは、それぞれの項目について3段階でチェックを行いその結果をレーダーチャートに記入する（CDでは自動的にレーダーチャートが作成される）ことで、大まかではあるが教師自身の授業力にかかわる現状を、客観的に把握することができよう設計してある。得られた結果から自分自身が受けるべき講習を絞り込む際に活用することができる。

○受講すべき講習を選択するための自己診断チェックシート

このチェックシートは、講習受講者が適切な講習を選択できるように、受講者の社会科授業の特質や授業力を判定し、その結果から受講すべき講習の候補を2～3個挙げることを目的としたものである。基本的には、免許更新講習を受講しようとする教師が自分で質問に回答して、その結果から受けた方がよい、受けるべきと考えられる講習を判定するものである（CDでは自動的に受講すべき講習の候補が示される）。

第2編 講習プログラム

○探求型の授業構成を身に付けるためのプログラム

社会科教員としての授業力向上を目指す講習プログラムである。研修のねらいは、探求型の授業構成の原理と方法を身に付けさせることである。プログラム構成は以下のとおりである。

- ・現在の自分の授業スタイルを把握する。
- ・探求型社会科授業の原理を把握する。
- ・探求型社会科授業の指導案の作成方法を習得する。

○社会参加型授業構成習得のためのプログラム

社会参加型の授業構成を従来の社会認識を中核とする社会科とは異なるものとして捉えるのではなく、原理的にその延長上にあるものとして位置づけ、その原理や授業構成の方法を理解することを目指す講習プログラムである。「総合的な学習の時間」の社会参加型学習との違いについても言及し、たんなる体験に終わることのない社会科授業として意味ある参加型の授業の在り方を提示する。

○社会科教育学によるコラボ型「社会的な思考力・判断力・表現力の育成」プログラム

社会科教育学を専門としながらも、その学

問領域内での異なる専門性をもつ大学教員複数が、それぞれの立場から講習を行う「社会的な思考力・判断力・表現力の育成」をテーマとした講習プログラムである。

○社会科教育学と哲学・倫理学と法律学によるコラボ型「社会環境学習」プログラム
社会科教育学と哲学・倫理学と法律学を担当する大学教員による「社会環境学習」をテーマとした講習プログラムである。

小・中学校社会科及び高等学校地理歴史科・公民科、そして総合的な学習の時間においても、社会環境に関わる学習は重要なテーマとなっていることから、まず学校教育における社会環境学習の実態を確認する。その後、環境や災害に関わる哲学・倫理学研究及び法律学研究の実証的な知見を提示したうえで、それらの学術的成果を活用した新たな社会環境学習のプランニングまでを展開する。

○社会科教育学と東洋史学と日本史学によるコラボ型「東アジア海域学習」プログラム

社会科教育学と東洋史学と日本史学を専門とする大学教員が、それぞれの専門性を活かしながら、「東アジア海域学習」をテーマに連続性と接続性も意識しながら、講習を展開していく講習プログラムである。

○社会科教育学と教科内容学のコラボ型プログラム～教師の教材開発・授業設計力の連続的向上をめざして～

社会科教育学と教科内容学を担当する大学教員が、学校教員の授業開発力及び教材開発力の向上に向けて協働で取り組むことのできる講習プログラムである。プログラムのねらいは、次の通りである。

①教師が自ら社会科として相応しい教材や教育内容を判断し、その判断に基づいて教科内容学の専門家や史料集などから必要な情報を引き出すことができるように支援する。
②学習対象者や社会科授業の目標が変わると、それと連動して、相応しいとされる教育方法とともに教育内容や教材が変わることを教師に理解させ、教師自身がその使い分けをすることができるように支援する。

○博物館等を活用した授業設計のためのプログラム

博物館等社会教育施設を活用した社会科学習のあり方をテーマとした講習プログラムである。

小・中学校社会科及び高等学校地理歴史科・公民科等の学習指導要領において強調されている博物館等社会教育施設の積極的な活用にかかわり、博物館等での体験学習や教材開発等を通して、教員自らが主体的に博物館等を活用した授業設計や現地指導ができるようになることを目的としたプログラムである。

5. 主な発表論文等
〔雑誌論文〕(計0件)
〔学会発表〕(計0件)
〔図書〕(計0件)
〔産業財産権〕
○出願状況(計0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷田部 玲生 (YATABE REIO)
桐蔭横浜大学・スポーツ健康科学部・教授
研究者番号: 30311137

(2) 研究分担者

棚橋 健治 (TANAHASHI KENJI)
広島大学・教育学研究科(研究院)・教授
研究者番号: 40188355
桑原 敏典 (KUWABARA TOSHINORI)
岡山大学・教育学研究科(研究院)・准教授

(3) 連携研究者

工藤 文三 (KUDO BUNZOU)
国立教育政策研究所・初等中等教育研究部・初等中等教育研究部長
研究者番号: 30231096
小山 茂喜 (KOYAMA SHIGEKI)
信州大学・全学教育機構・教授
研究者番号: 10452145
鴛原 進 (OSHIHARA SUSUMU)
愛媛大学・教育学部・准教授
研究者番号: 30335880
永田 忠道 (NAGATA TADAMICHI)
大分大学・教育福祉科学部・准教授
研究者番号: 90312199
渡部 竜也 (WATANABE TATSUYA)
東京学芸大学・教育学部・講師
研究者番号: 10401449
下野 洋 (SHIMONO HIROSHI)
岐阜女子大学・文化創造学研究科・教授
研究者番号: 30142631
三浦 軍三 (MIURA GUNZO)
宇都宮共和大学・シティライフ学部・教授
研究者番号: 00109141